

平成 20 年 9 月 11 日

9 月定例所長会見における高橋所長挨拶内容

所長の高橋でございます。本日、私からは 3 点申し上げます。

まずは、「設備や建物・構築物の健全性確認」についてです。

当発電所では、国に提出している点検・評価計画書に基づき、設備や建物・構築物の健全性確認を順次進めております。設備の健全性確認につきましては、本年 5 月までに全プラントにおいて点検・評価計画書の提出が完了しており、現在、これらの計画書に基づいた点検・評価を実施しているところです。このうち、7 号機につきましては、現時点で実施可能な機器レベルの基本点検がほぼ終了しており、これまでの結果を取りまとめた点検・評価報告書を 8 月 27 日に開催された国の WG にてご審議いただきました。そこでのご指摘を反映した報告書を近々に国へ提出する予定であり、9 月 18 日からは系統レベルの健全性確認を実施してまいります。

系統レベルの健全性確認は、関連する機器を組み合わせた 1 つの系統を運転することによって、警報やインターロックの作動、弁の開閉、ポンプの運転性能等の状況を確認し、系統全体の性能が発揮されることを評価するものです。原子力発電の安全機能である「止める」「冷やす」「閉じ込める」機能を確認するための試験を順次実施していくこととなりますので、今後も、こうした点検・評価の進捗状況を適宜お知らせするとともに、ご要望に応じて現場公開を検討いたします。

また、建物・構築物の健全性確認につきましても、1 号機、3 号機、6 号機、7 号機において、点検・評価計画書を提出済みであり、9 月 1 日には、7 号機の点検・評価報告書（建物・構築物編）を、国へ提出いたしました。この 7 号機の点検においては、原子炉建屋、タービン建屋、排気筒および非常用取水路の各部位について、要求される性能を損なうような事象は確認されておりません。さらに、地震応答解析においても、評価基準を満足していることを確認したことから、設備健全性が確保されているものと評価いたしました。建物・構築物については、現在、1 号機、3 号機、6 号機についても、既に提出している計画書に基づく点検・評価を進めておりますが、近々に、残る 2 号機、4 号機、5 号機の点検・評価計画書を国へ提出する予定です。

当発電所といたしましては、今後も、安全の確認を第一として、予断を持たずに設備や建物・構築物の健全性確認を着実に進めてまいります。また、各号機の点検結果については、国・県の委員会等でご審議いただき、その審議内容を発電所の点検・評価に適切に反映いたします。

2点目は、「発電所の耐震安全性評価」についてです。

当発電所の基準地震動につきましては、現在、国・県の委員会等において専門の先生方にご審議いただいております。先月開催された国のWGの中で、F - B断層については約36kmで評価する旨の判断が示されました。

当社といたしましては、この判断に対して適切に対応してまいり所存であり、現在、F - B断層の長さを36kmに見直した場合の地震動評価を実施しているところです。今後も評価を進め、長岡平野西縁断層帯等の影響も踏まえ、評価がまとまった段階で、国・県の委員会等へ報告する予定です。

3点目は、「発電所の安全性を向上するための工事」についてです。

発電所の安全性を向上するための耐震強化工事につきましては、6・7号機の配管サポート等に関して、準備が整った部分から開始しております。

6・7号機ともに、配管サポート、原子炉建屋屋根トラス、燃料取替機の工事を先月までに開始しておりますが、9月5日からは、排気筒の強化工事を開始いたしました。また、7号機においては、9月16日より、原子炉建屋天井クレーンの工事を開始する予定です。

その他の設備につきましても、現在、耐震強化の要否に関する検討を進めておりますので、今後、新たな対象設備が具体化した段階で、工事開始時期等について順次お知らせいたします。

私からは以上です。

以上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・ プレス公表(運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成20年9月)

平成20年9月11日

発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況										補足説明
			10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 定検停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定検による停止										
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止										
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止										
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止 原子炉自動停止										
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定検による停止										
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.5.24~	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第8回定検による停止										
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.11.15~	第7回 H18.8.23 ~ H19.1.11 停止期間 H18.8.23 ~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	第8回定検による停止 原子炉自動停止										

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率(%) (8月末現在)

8月	0.0%
20年度累計	0.0%
運転開始後累計	71.2%

発電所発電電力量(万kWh) (8月末現在)

8月	0
20年度累計	0
運転開始後累計	80,191,836

ドラム缶発生量(本) (H20年度第1四半期)

当期発生本数	196
貯蔵庫累積貯蔵本数	22,574
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H20年度第1四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,372
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

構内従業員データ(人) (9月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	829	2,797	41%
	刈羽村	97	309	5%
	その他	72	1,326	16%
	小計	998	4,432	62%
県外		121	3,231	38%
合計		1,119	7,663	-
		8,782		100%
協力企業社数(社)		842		

「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

来客情報(人) (8月末現在)

	8月	年度累計
地元	2,510	7,785
県内	1,645	6,883
県外	3,923	15,096
国外	19	212
合計	8,097	29,976

今後の主なスケジュール

予定日	内容
9月18・19日	第129回名画鑑賞会 (柏崎エネルギーホール)
9月28日	とうでん 今・話・会 (西山ふるさと館) 「美肌師 佐伯チズ ビューティートークショー 美肌塾」
10月9日	次回定例所長会見予定
10月11・12日	秋のふれあいイベント (サービスホール)
10月15日	発電所構内見学会・花と球根の寄せ植え体験教室 (き・な・せ)
10月18・23・24日	フラワーアレンジメント教室 〔【刈羽会場】10月18日 (き・な・せ) 【柏崎会場】10月23・24日 (柏崎エネルギーホール)〕
10月19日	東京電力 ミュージックライブ アット カムフィー (カムフィー) 津軽三味線「小林組。」
10月23・24日	第130回名画鑑賞会 (柏崎エネルギーホール)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成20年9月11日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	8月19日	1号機	原子炉複合建屋における放射性物質の確認について (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期検査中の1号機原子炉複合建屋地下5階低電導度液体廃棄物処理系ろ過器室（管理区域）において、平成20年8月18日午前11時50分頃、協力企業作業員が配管健全性確認の準備作業を行なうにあたり、放射能汚染測定を実施したところ、床に設置している排水口近くの床面にごく微量の放射性物質を確認しました。このため、当社放射線管理員が詳細に放射能汚染測定を実施したところ、室内に0.5～0.8ベクレル/cm²、当該排水口に最大約6.5ベクレル/cm²の放射性物質を確認しました。室内に漏水はなく、また、室外および通路に汚染はありませんでした。 <p>(原因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水口周辺の汚染が高いことから、当該排水口に通じる配管内の空気が逆流して当該室内床面に放射性物質が付着したものと推定しております。 <p>(安全性、外部への影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事象による外部への放射能の影響はありません。 <p>(対応状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床面に確認された放射性物質は拭き取りにより清掃しました。また汚染の拡大を防止するために、当該排水口に水張りをを行うとともに、定期的に水張り状況を確認します。
②	8月22日	6号機	タービン建屋におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	—
③	8月25日	7号機	屋外作業におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	—
④	9月1日	3号機	原子炉建屋内（管理区域）における水漏れについて (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期検査中の3号機において、平成20年8月29日午後4時15分頃、原子炉建屋格納容器内（地下2階相当）で作業を行っていた協力企業作業員が、上部階から水が滴下していることを発見しました。当該作業員より連絡を受けた当社社員が現場を確認したところ、原子炉建屋格納容器内ダイヤフラムフロア（地下3階相当）の床面に水が溜まっていることを発見しました。床面に溜まった水の量は約98リットル、放射能量は約1.8×10⁵ベクレルでした。 <p>(原因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果、残留熱除去系配管の水張り作業中に、原子炉建屋格納容器内（地下1階相当）に設置している排水弁が開いていたため、排水口に流れ込んだ水の一部が排水口から溢れ、グレーチング（金網状の床）を通じてダイヤフラムフロアの床面に溜まったことがわかりました。 <p>(安全性、外部への影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事象により漏れた水は、液体廃棄物処理系によって処理されるため外部への放射能の影響はありません。なお、付近で作業していた4名の作業員に滴下した水滴の付着がありましたが、確認の結果、放射性物質による汚染はありませんでした。 <p>(対応状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該排水弁を閉めたことにより水漏れは停止しました。また、床面に漏れた水は8月29日に拭き取りによる清掃を実施しました。対策として、運転員に対して弁操作に際しての指差呼称の再徹底を行いました。また、運転員全員を対象として本事例についての事例検討を行うこととします。